

## # 6「美まもりやまカフェ」(東京都世田谷区)

### 1. 概要



運営主体	世田谷区社会福祉協議会新代田地区事務局・新代田まちづくりセンター 新代田あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）		
所在地 (基礎自治体)	東京都世田谷区	人口規模* (基礎自治体)	921,556 人(R2.4.1 現在)
(活動範囲)	新代田地区	(活動範囲)	25,637 人(R2.4.1 現在)
活動展開の範囲	東京都世田谷区新代田地区		
活動拠点の種類	小学校跡地を活用した複合施設「まもりやまテラス」		
活動開始年	2019 (R1) 年		
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者、子ども、障害者、子育て世帯が世代を超えて交流を楽しむ場。毎月第3木曜の13～15時に複合施設（地区会館、保育園、福祉作業所設置）内でオープン。区社協、包括、まちづくりセンターが行っている三者連携の事業。世田谷区社会福祉協議会新代田エリアの地域福祉推進員、地区サポーター（ボランティア）がスタッフとなり開催している。</li> </ul>		
対応する地域課題	地域のつながりの希薄化		

\*人口出典：世田谷区 WEB サイト「世田谷区内全域の人口と世帯数」<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/001/003/001/d00121945.html>

### 2. 活動の展開プロセス

#### ■活動の背景として 世田谷区の3者連携事業

- ・ まちづくりセンター、地域包括支援センター、社会福祉協議会の3者が連携しながら、身近な地区の相談支援体制の強化や相談支援、必要なサービスへのつながりを行うもの。また、地域の課題を地域で解決するために、多主体の連携、協働のもと居場所や生活支援サービス、地域人材の発掘や創出、コーディネート機能を発揮しながら、地域包括ケアシステムの構築、推進に取り組む。

#### ■地域の状況

- ・ 世田谷区新代田地区にある「生活支援検討会」という会議体で実施したアンケートにおいて、「顔を合わせたおしゃべりの場が必要」「気が向いた時に、ふらりと寄れる地域内の居場所が欲しい」という、地域福祉推進員、民生委員やサロン関係者からの声が寄せられた。

- ・ 2014（H26）年度から 2023（R5）年度までの、新代田地区のまちづくり活動目標に、「明るく安心、楽しく健康的な生活の出来る新代田」が掲げられている。住民たちの、外に出て身体を動かすことなどを通じて、仲間や顔見知りが増え、楽しく住み続けられるまちにしたいという住民の希望が反映されたもの。
- ・ 新代田地区社協においても、「世代を超えて、どなたでも参加・参画していただけるようにすること」「この地で暮らす人たちが皆顔見知りになること」「活動を次の世代に継承していくこと」という目標が掲げられている。

### ■「まもりやまテラス」のオープンを待っての「美まもりやまカフェ」始動

- ・ 2019（H31）年 4 月に福祉作業所「まもりやま工房」・保育園・地区会館の入る施設、世田谷区立「まもりやまテラス」が開所。施設は地域住民が主体となり、地域のワクワクする活動や、賑わいをつくっていくことを大切にしたい運営がなされることに。並行して進んでいた「美まもりやまカフェ」も 1 か月後の 2019（R1）年 5 月に始動。

### 地区の掲げるビジョンと資源（テラス）のマッチ



かねてから地域で掲げられていた目標、ビジョンと施設自体が掲げていた目標とマッチ。円滑な活動の開始につながった。

### ■美まもりやまカフェの運営体制

- ・ 区社協、包括、まちづくりセンターの 3 者連携事業として行っている。スタッフは世田谷区社会福祉協議会 新代田地区の地域福祉推進員、地区サポーター（ボランティア）が担い、準備・麦茶等の提供・後片付け等を担っている。
- ・ ボランティアの年齢層は、50～70 代が中心であり、地域活動への意欲が高い。入れ替わりはあるが、美まもりやまカフェには毎回 20 名程度のボランティアが参加している（うち、男性は 5～6 人）。ママ世代の協力もあり。
- ・ 新代田地区では、男性の地域活動への参加を推進。男性のみのボランティアグループ（サロン）があるが、その方々も美まもりやまカフェのスタッフとして積極的に役割を担っている。
- ・ テラス内の福祉作業所「まもりやま工房」の職員や利用者も、美まもりやまカフェで工房が作る焙煎珈琲や焼き菓子を販売するスタッフとして活躍、参加者とも自然な形で交流を持っている。



### ■居場所としての美まもりやまカフェの機能発揮

- ・ スタッフはいずれも地域で活躍されている方々。参加者はスタッフや友人と町内イベントや健康の秘訣等の身近な話題を楽しんだり、社協職員に「成年後見制度について教えて」と尋ねたり等、それぞれが美まもりやまカフェを楽しんでいる。
- ・ 「地域に一人暮らしの方がいるが、どうすればよいか？」と相談を受け、民生委員と一緒に訪問し、介護保険サービスにつながったケースもあった。

- ・「別の地区に住む親が心配で」とスタッフから相談を受け、その地区の包括と連絡を取り合いつつ様子を見るということもあった。
- ・スタッフも参加者も顔見知りが多く、入り混じっているような雰囲気。常連さんも多い。

### 地域住民、専門職、福祉作業所利用者、子育て世帯… 多主体が携わる運営体制

POINT

地域活動への意欲が高いボランティアの方々を中心に、専門職（社協、包括）やまちづくりセンター、福祉作業所の職員や利用者、子育て世代のママたち…多様な主体が運営に関与。参加者との会話の中から、相談につながることもある。

#### ■活動にあたっての資金、物品の確保

- ・スタッフはボランティア、消耗品等は区や社協の物品を使用しながら運営している。
- ・コロナ以前に使用していた食器（使い捨てではないもの）や布巾などはスタッフからの持ち寄りもあった。
- ・机やイスなどは、テラスのものを使用。簡単な調理ができる設備も整っている。住民の方々の協力があがり、この活動は総じてお金をかけることなく継続できている。

#### ■地域への活動情報の発信

- ・地域福祉推進員や民生委員、包括からの口コみや、「一緒に行こうよ」「私もいるからおいでよ」という誘いが最も重要で、有効。
- ・回覧や、WEB サイト掲載に協力してくれている町会もある。
- ・社会福祉協議会の「新代田地区事務局」メールマガジンや HP で情報発信。
- ・まもりやまテラスのWEB サイトや「まもりやマガジン」という活動ペーパーを利用した美まもりやまカフェの活動情報の提供。
- ・包括では毎月発行している広報紙 1,300 部ほどを町会やサロン、医療機関や介護保険サービス事業者に配布している。その広報紙に美まもりやまカフェの情報を掲載することもある。また、個別支援で関わっている 200 名弱の方々には孤立がちな方も多く、交流ニーズがある方に対し案内している。
- ・美まもりやまカフェは和やかな「居場所」であることが大切、参加者は新代田エリア近辺の方が多いと思うが、遠方からも含めて色々な方に参加していただきたいと思う。

#### ■地域からの理解

- ・地域内の繋がりを大切にし、くつろげる場、ちょっとした困りごとを口にし、相談できる場がほしいという住民の思いを発端に開催が決まった「美まもりやまカフェ」、今後も住民の「居場所」として大切な役割を担い続けられる。

### 多数 + 個別のアプローチによる広報

POINT

町会の回覧、社会福祉協議会のメルマガや HP、包括の広報誌で情報発信など多数へのアプローチと、包括の個別支援でのアプローチや口コミなど個別のアプローチを組み合わせることで広報・PR 活動を実施

### 3. 今後に向けて

#### (1) 今後の展望 コロナ禍での運営を通じて

- ・ 美まもりやまカフェ自身が「身近な地域内で、交流の場が欲しい」というニーズにより開始されたため、コロナ禍による飲食なしの開催でも地域の方が足を運び、喜ばれている。また、スタッフの地域活動に関する情報共有の場にもなっている。
- ・ 地域に根差した継続的な活動、スタッフと参加者、もしくはスタッフ同士の顔合わせの場の確保、工房（福祉施設）の収益貢献等を目的に美まもりやまカフェの開催を続けてきたが、コロナ禍以前の開催時と比べると参加者は少なくなっている。コロナ禍が明けたら、今まで以上にPRを増やし、参加者数増を目指していく必要はあろうかと思う。

#### (2) 地域における活動の更なる展開

- ・ 三者連携事業という骨組みが根底にあることで、スタッフも安心してボランティア活動していただけていると思う。困ったことがある時には、連絡・相談できる事務局がある。またスタッフ同士の繋がりの中で、人間関係を深めたり、地域内での居場所をスタッフ自身が得ていると考えられる。
- ・ 美まもりやまカフェの運営においては今の方法で問題ないが、新代田地区内でさらに「居場所」を増やしていきたいと考えると、中心的な役割を担う方を増やしたいと思う。

活動団体の情報	美まもりやまカフェ 【連絡先】世田谷区社会福祉協議会 新代田地区事務局 TEL 070-3946-9793
---------	---